

創設50周年記念誌

あ ゆ み



日高市スポーツ少年団



Musashidai 武藏台小学校



Koma 高麗小学校



Komagawa 高麗川小学校



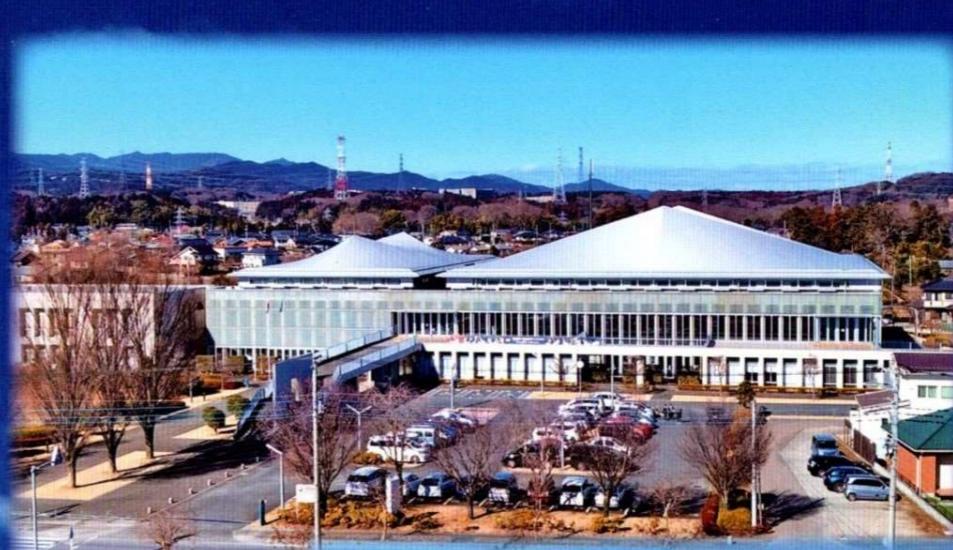
Takane 高根小学校



Takahagi 高萩小学校



Takahagikita 高萩北小学校



Hidaka-arena
ひだかアリーナ



Hidaka-park
ひだか総合公園



Kincyakuda
巾着田グランド



Yokotedai
横手台グランド

目 次

○ あいさつ

日高市スポーツ少年団	本部長	和田 茂	1
埼玉県スポーツ少年団	本部長	尾崎 豊	2
日高市スポーツ少年団	名誉本部長			
日 高 市	市長	谷ヶ崎 照雄	3
日高市議会	議長	森崎 成喜	4
日高市教育委員会	教育長	中村 一夫	5
埼玉県議会	議員	小谷野 五雄	6
日高ロータリークラブ	会長	鈴木 敏藏	7
日高市小学校校長会	会長	半田 貞晴	8
日高市スポーツ少年団	本部相談役	金子 博	9
日高市議会	議員	牧本 征雄	10
日高市スポーツ少年団	初代相談役			

○ 日高市スポーツ少年団 50年間のあゆみ

30周年までのあゆみ	副本部長	岡野 一平	11
平成14・15年	10代日本部長	金島 清志	(高萩) 12
平成16・17年	11代日本部長	松田 征彦	(高萩北) 12
平成18・19年	12代日本部長	田中 正人	(武蔵台) 13
平成20・21年	13代日本部長	大江 一藏	(高根) 13
平成22・23年	14代日本部長	小俣 徳蔵	(高麗) 14
平成24・25年	15代日本部長	石田 哲夫	(高麗川) 14
平成26・27年	16代日本部長	増田 進	(高萩) 15
平成28・29年	17代日本部長	美松 長徳	(高萩北) 15
平成30・令和元年	18代日本部長	宮岡 孝二	(武蔵台) 16
令和2・3年	19代日本部長	菊池 武彦	(高根) 16

○ 各専門委員会の活動のあゆみ

野 球 専 門 委 員 会	委員長	斎藤 弘	17
サッカーナショナルチーム	委員長	塩月 貴弘	21
ミニバスケット専門委員会	委員長	本多 忠寿	25
卒団員からのメッセージ	東北楽天イーグルス	戸村 健次	29
	バスケットWリーグ	岡田 姉妹	30
	女子サッカー	永島 自然	31
日高市スポーツ少年団	栄光の記録			32

○ 各団の紹介

武蔵台スポーツ少年団	林 俊和	33
高麗スポーツ少年団	木村 美智雄	37
高麗川スポーツ少年団	宮越 昭彦	41
高根スポーツ少年団	宮寺 茂	45
高萩スポーツ少年団	鈴木 清一	49
高萩北スポーツ少年団	斎藤 弘	53

○ 日高市スポーツ少年団 本部規約		57
-------------------	--	-------	----

○ 編集後記・記念誌発行委員		58
----------------	--	-------	----

日高市スポーツ少年団 創設五十周年記念誌

あ

ゆ

み

50周年に寄せて



日高市スポーツ少年団
本部長 和田 茂

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎え、今まで支えて下さった日高市教育委員会、学校関係者、並びに日高ロータリークラブをはじめ指導者の皆様、育成母集団の皆様に、心より感謝申し上げます。

日本スポーツ少年団は、「一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する」、「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる」という理念のもと、1962(昭和37)年6月23日に創設されました。

日高市(創設当時、日高町)におきましても、昭和47年1月に学校の先生方を中心として、「日高町の子供達を学校教育とは別のもので心身の育成を図ろう」という目的で、高麗川、高萩スポーツ少年団で始まりました。昭和48年「日高町スポーツ少年団連盟」が発足、同年4月高麗、高根スポーツ少年団が加盟、昭和53年に高萩北スポーツ少年団、昭和55年に武藏台スポーツ少年団が加盟し、単位団6団の活動となり、先生方のボランティアによる校庭を利用したスポーツ少年団活動から、次第に保護者、地域の協力者も現れ地域に根ざしたスポーツ少年団の基礎ができました。そして、昭和58年4月埼玉県スポーツ少年団の組織に入会し、その活動内容も県大会、関東大会と大変広くなりました。

日高市スポーツ少年団も、高度成長期における人口急増もあって団員も増加しておりましたが、近年は、少子化に加え社会環境の変化に伴って団員の減少が続き、単位団での活動も厳しい状況となっております。また、新型コロナウイルス感染拡大防止により、各種大会の中止、練習等の制限を受けるなど子供達を取り巻く活動環境も大きく変わりました。このように、目まぐるしく変化する社会環境の中で「スポーツによる青少年の健全育成」という目的の実現へ向け、今後とも指導者、役員、育成母集団等のより一層のご理解とご協力を賜り、地域に密着したスポーツ少年団として青少年を育んでいただきますよう、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

最後に50周年記念誌発行事業に際し、ご理解、ご協力頂いた皆様方に厚く御礼申し上げると共にますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

祝 辞



公益財団法人埼玉県スポーツ協会
埼玉県スポーツ少年団
本部長 尾崎 豊

日高市スポーツ少年団創立50周年誠におめでとうございます。

ここに創立50周年という記念すべき年を迎えることに対し、心からお祝いを申し上げますとともに、これまでスポーツ少年団の発展に、ご尽力を賜りました本部長さんをはじめ役員の方々や関係の皆様に、深く敬意と感謝を表するものであります。

貴スポーツ少年団におかれましては、スポーツ少年団活動を通して子どもたちの心と身体を育てることを目的に、指導者を対象にした研修会の実施や種目別の交流大会の開催など様々な事業を展開してこられ、まさに発展の一途をたどってこられた年月であったこととご推察申し上げます。

なお、貴スポーツ少年団は、全小学校を母体として単位スポーツ少年団が活動しており、交友都市との交流事業や各地域イベントへの参画などスポーツ活動のみならず、地域交流も大事にされています。

本年は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によって、様々な事業の実施を検討せざるを得ない状況となり、子どもたちの活動の場が限られた年でもありました。この様な中でも、我々スポーツ少年団の関係者は、将来を担う子どもたちのために、今まで以上に地域の皆様と手を取り合い、新しい生活様式を取り入れながら、より良いスポーツ環境の整備や子どもたちがスポーツに親しめるプログラムの提供をしていかなければなりません。そのことが、子どもたちの健康体力の増進や、健全な身心の育成に必ずや繋がるものと確信しております。

日高市スポーツ少年団には、この創立50周年を契機として、更なる飛躍をされますよう心からご期待申し上げますとともに、関係の皆様方には、ご健勝にて、更なるスポーツ少年団活動の充実のため、ご尽力賜りますようお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。

日高市スポーツ少年団創立50周年を祝して



日高市スポーツ少年団 名誉本部長
日高市長 谷ヶ崎 照雄

日高市スポーツ少年団が創立50周年を迎え、ここに記念誌を発刊されることは、まことに意義深いものであり、関係各位のご尽力に深く敬意を表すとともに、心からお祝い申し上げます。

思い返せば昭和48年1月、小学校の先生方がスポーツを通して子どもたちを育成する目的で、放課後を利用して活動を始めたことがきっかけとなり、地域の中のスポーツ少年団として発足し、50年の歴史を刻む中、現在では市内6つの小学校全てにてミニバスケットボール・軟式野球・サッカーを通して、子どもたちの健全育成が活発に行われていることを大変喜ばしく感じます。

この間、子どもたちは自らの可能性をそれぞれの競技に見い出し、中学校、高校へとステップアップしていく中で、友情を育むとともに技術を向上させていき、果てにはプロ選手となるまで道をつないだ方もおり、スポーツ少年団での活動が子どもたちの人生の礎となっていると言っても過言ではないと思います。

さて、日高市は平成8年10月に大韓民国の烏山(オサン)市と友好都市提携を結び、スポーツや文化交流などを図ってまいり、令和4年度で26周年を迎えた。

その中でもスポーツ(サッカー)交流事業においては、平成14年(2002年)の日韓共同で開催されたワールドカップサッカー大会を契機に平成15年から相互に隔年で相手市を訪問する形で親善試合等が実施されてきましたが、そこではスポーツ少年団の皆さまが先頭に立っていただき、サッカーだけではなく、ホームステイ等も通じて、烏山市の選手たちと積極的な交流を図っていただき、この交流事業が成功を収めてこられたことに感謝を申し上げます。

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、この交流事業の実施もままならない状況となっておりますが、希望の灯を絶やすことなく、交流事業再開の折には、今まで同様、スポーツ少年団の皆さまにご活躍をいただきたく、両市で準備を進めてまいります。

日高市スポーツ少年団におかれましては、この創立50周年を契機として、子どもたちがますます体力向上・健康増進されるよう、関係各位のご尽力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴団のご発展と皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

日高市スポーツ少年団50周年を迎えて



日高市議会
議長 森崎 成喜

日高市スポーツ少年団が創立50周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。また、その歴史の歩みを記念誌にまとめ発刊されることは誠に意義深く、心からお慶び申し上げます。

日高市スポーツ少年団は創立以来、スポーツを通じて協調性や創造性を養い、社会のルールや思いやりの心を学ぶ場として、子どもたちの育成に大きく貢献されております。

小学校の前を通る際、子どもたちが一生懸命に、仲間と一緒にスポーツを楽しんでいる姿を見たときもいつも元気をいただいております。また、20年以上前になりますが、私の子どもも日高市スポーツ少年団に所属していた時期があり、サッカーの試合でやっと一勝したときは、彼らの自信につながる大きな一勝になっただろうと、今でも感動したことを覚えています。

今まで、子どもたちが伸び伸びとスポーツに励んでこられたのも、ひとえに、日高市スポーツ少年団の運営にあたってこられた歴代の本部長の方々をはじめ、役員並びにご家族の皆様方の熱意とご尽力のたまものと、深く感謝申し上げるとともに敬意を表します。

さて、この数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、思うように練習ができず、大会も開催することができないこともあります。役員の皆様、子どもたちも、大変心苦しいものだったと思います。

しかし最初の感染症流行から3年目を迎え、ようやく新しい生活様式のもとイベントやスポーツができる状況になってきました。改めてスポーツの楽しさ、仲間の大切さを感じる機会になったのではないでしょうか。

スポーツは、健康増進はもちろんのこと、仲間と切磋琢磨することで、技術や身体だけでなく心を成長させることができるすばらしいものです。

市議会といたしましても、日高市スポーツ少年団の活動を全力で支援して参りますとともに、この先10年20年と、歴史ある日高市スポーツ少年団が継承されていきますことを願っております。

結びに、日高市スポーツ少年団の益々のご発展と、子どもたちのご活躍を心からご祈念申し上げまして、創立50周年のお祝いの言葉といたします。

日高市スポーツ少年団50周年に寄せて



日高市教育委員会
教育長 中村 一夫

日高市スポーツ少年団が発足し50周年を迎えたことに、心よりお祝いを申し上げるとともに、団の発展に多大なるご尽力をいただいた関係各位に敬意と感謝を表します。

さて、日高市スポーツ少年団は結成当初、高麗・高麗川・高萩の各小学校区单位で発足しました。やがて高根・高萩北・武藏台と新しい小学校ができるにしたがって、スポーツ少年団も6団となりました。この間、それぞれの地域で、多くの子供たちがスポーツに親しみ、チームワークを学び、その後の成長の糧としてきました。改めて50年の重みを感じます。

当初は指導者に小学校の教職員も多数関わっていました。私事で恐縮ですが、私は昭和55年に新任教員として高根小学校に奉職しましたが、当然のようにスポーツ少年団の指導に携わりました。1年目は野球とサッカーを、2年目からはミニバスを中心にチームを任せられました。子供たちと一緒に練習に励み、試合で勝つ喜び負けて悔しがり、楽しい時間を過ごしました。子供たちの学校では見せない姿を見られたり、教員以外の指導者の方や地域の方々と交流できたりと、教職だけでは味わえない経験を数多くさせていただきました。

当時の日高市の小学生の数は6,500人を超えていましたが、少子化の影響で今は2,500人余りとなっていました。当然ながら団員の確保が大きな問題となっています。一方で現在、日高市で進めている「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の推進は、小学校、中学校、そして地域が一体となって子供たちの教育を進めようというものです。地域でスポーツを通して子供たちの成長に貢献していただいているスポーツ少年団の意義は、今後益々重要になってくると思います。また、地域学校協働本部と連携しての新しいスポーツ少年団の姿も期待されるところです。

50周年の節目に当たり、この先の50年、さらにその先においても、子供たちの健全育成の要として日高市スポーツ少年団が充実し発展することを心から祈念して、お祝いの言葉といたします。

50周年に寄せて



埼玉県議会
議員 小谷野 五雄

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。本部長をはじめ、指導者の皆様、関係者の皆様におかれましては、これまで、少年団に参加した子供たちの成長に寄与されてきましたことに敬意を表します。

日高市スポーツ少年団は、市内6つの小学校を活動拠点としておりますが、その活動拠点の一つであります高麗川小学校は、私の母校でもあります。

高麗川スポーツ少年団は、私が昭和42年に卒業後、昭和47年に創立されました。小学校在学当時、担任の先生から、将来スポーツ少年団が創設されることを聞き、大変うらやましく思ったことを今でも覚えています。

また、同在学中にプールが新設されました。それまで、家の近くの小畔川で泳いでいましたが、プールができたことをきっかけに、今日まで、水泳を続けています。

私にとって、水泳は、スポーツそのものを楽しむことはもちろん、自分の心と向き合うものであり、目標を達成するために欠かせないものです。

私は、高校1年生の時、父親の鉄道事故をきっかけに様々な方にお世話をになりました。その時、自分も社会に何か恩返しをしたいと考えるようになりました。政治家を志すことになりました。

目標に向かって突き進むことができたのは、まさにスポーツで培った強い精神力を身に付けたおかげがありました。

少年団の児童のみなさんは、スポーツを楽しみたいという一心で、入団したかもしれません。少年団の活動は、このような児童の期待を受け止めるることはもとより、目標達成に欠かせない精神面の強さを養い、仲間や指導者との交流によりコミュニケーション能力や思いやりの心を育むものと考えます。

これから日高市、埼玉県、そして日本を担う児童のみなさんは、この貴重な経験が今後の人生を歩んでいくうえでの糧となることだと思います。

今後とも、日高市スポーツ少年団の活動が、子供たちの成長を支える存在として、連綿と続きますことを心から祈念します。

日高市スポーツ少年団創立50周年にあたって



日高ロータリークラブ
会長 鈴木 敏藏

スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。半世紀にも及ぶ永きにわたって築いてきた伝統に、そして青少年の健全育成に自己犠牲も厭わず、努力されてきたことに、感謝と敬意を申し上げます。

スポーツを通じて青少年たちに『連帯感・自己の存在感・達成感そして仲間との友情』が身についていくものだと思います。勝った時の嬉しさや負けた時の辛さの中で青少年たちには社会人になって1番大切な『人への思いやり』が理解できるのではないか！

私たち日高ロータリークラブも本年度で創立40周年を迎えることになりました。日高ロータリークラブは創立以来、青少年健全育成に重きを置いて取り組んできました。青少年を対象とした各スポーツ団体の後方支援、社会的擁護を必要とする施設への助成などを行っています。

今、社会問題になっているのは『子どもの貧困問題』です。子ども7人に1人の割合で貧困に陥っています。当クラブでもフードパントリーや子ども食堂に後方支援していくつもりです。

次世代を担う青少年のためにスポーツ少年団の更なる発展と指導者皆様のご活躍をお祈りして挨拶といたします。



2022-23年度 国際ロータリーのテーマ

50周年に寄せて



日高市校長会長
日高市立高麗川小学校長 半田 貞晴

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、コロナ禍の中、3度目の秋を迎えました。コロナ禍1・2年目は、スポーツ少年団の活動にも制限がかけられ、試合を含め予定通りにいかなかったことも多く、残念だったことだと思います。子供たちにとってもスポーツ少年団には所属したものの、活動自粛の期間もあり、思うような活動ができませんでした。この期間中は、子供たちの体力低下が社会問題となり、全国的に体力テストの結果が右下がりとなっていました。しかし、3年ぶりとなる行動制限のない夏休みになり、ようやく以前のような活動ができるようになって、体力の向上も見込まれるようになりました。また、近年、人と人とのつながりが希薄になっており、このことは子供たちにとっても例外ではありません。学校生活においては、子供同士のコミュニケーションのとり方に悩んだり、すぐに諦めてしまったりする子供も少なくない現状があります。

そのような中、日高市スポーツ少年団での活動は、子供たちの技能や体力の向上はもとより、運動の楽しさや喜び等を仲間とともに味わい、仲間とともに成長していくことの素晴らしさを学ぶ場でもあると思います。また、日高市スポーツ少年団は、先行き不透明な社会を生き抜いていかなければならぬ子供たちにとって、必要とされるであろう自主性・主体性、コミュニケーション能力、忍耐力等を培う場でもあります。子供たちによっては、学校で見せる顔とスポーツ少年団で見せる顔が違う子供もいます。学校では比較的おとなしい子がスポーツ少年団になると人が変わったように大きな声を出し、活発に活動している子もいます。これからも一人ひとりの子供たちが輝ける場であってほしいと願うばかりです。スポーツ少年団に所属している期間は人生の中ではごくわずかですが、子供たちの得るものは非常に大きいものだと確信しています。

時代がどんなに移り変わっても、スポーツ少年団での活動に熱心に、そして真剣に打ち込む子供たちの瞳は今も昔も何ら変わりはありません。永きにわたりご尽力いただいております日高市スポーツ少年団本部長様をはじめ、指導者並びに関係者の皆様には、今一度この場をお借りして心より感謝申し上げます。また、今後とも子供たちの活動に際し、引き続きお力添えをいただきますよう併せてお願ひ申し上げます。そして、今まで以上に、学校と日高市スポーツ少年団との連携を密にし、情報交換等を図っていかなければ幸いです。

最後になりますが、日高市スポーツ少年団の今後ますますのご発展をお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。



50周年に寄せて (日高市スポーツ少年団永遠なれ)

日高市スポーツ少年団
本部相談役 金子 博

日高市スポーツ少年団設立50周年を迎えるにあたり心よりお喜び申し上げます。一言で50年と言っても半世紀です。この半世紀脈々と世代を引き継ぎ発展してきた日高市スポーツ少年団の歴史を作ってきた関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。

私のスポーツ少年団との関わりは、昭和55年に高麗川小学校へ赴任した時からです。当時秋吉先生や大森先生など教員が中心になりスポーツ少年団を指導していました。先輩の先生方に誘われ三つ返事で指導者に登録しました。それからは、ミニバスに夢中になり日高の他の学校のミニバスの指導者と競い、「日高を制する者は県をも制す。」と言われるほど日高市ミニバス発展に尽力しました。子どもたちの成長を見るたびにワクワクしながら指導していました。しかし、教員は異動が使命のため、異動後もしばらく高麗川スポーツ少年団の指導者として通っていましたが、自分の子どもが高萩スポーツ少年団に入団したのをきっかけに高萩スポーツ少年団の団長をすることになりました。その後は、本部の役員として金島本部長の下、会計として本部の一員として活動してきました。丁度その時が、30周年の年で、資金集めのため資源回収をしたり、各団に島原手延べそうめんを販売し収入を得たり、市民まつりでは模擬店を出店し、焼きそばの販売をしたりして皆さんと翻弄いたしました。これも皆懐かしい思い出です。その後は、しばらくスポーツ少年団とは離れていましたが、ミニバスの試合があれば、見に行き懐かしい指導者の皆様と昔話に花を咲かせました。

定年退職してのんびりしていた時、前任の牧本前相談役から「相談役をやってくれ~」と独特的の語り口調で言われ、「牧本先生みたいに力がないから無理ですよ。」とお断りをしたのですが、うまく説得させられ相談役を引き継ぐことになってしまいました。この3年間は、新型コロナウイルスの関係でスポーツ少年団の活動も制限され、各団とも厳しい状況での活動を強いられているようです。更に、少子化により団員数の減少や他のスポーツの普及による子どもたちの奪い合い等もあるようです。しかし、この半世紀脈々と発展してきた日高市スポーツ少年団は永遠です。私も今後、日高市スポーツ少年団の更なる発展に微力ですが努力してまいります。



50周年に寄せて

日高市スポーツ少年団
元相談役 牧本 征雄

日高市スポーツ少団が50周年を迎える、夢のような気持ちで一杯です。いつの間にか組織を受け継ぎ、そして、次の方へとバトンを渡された皆様方に団の創設にかかわってきたひとりとして敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

創設当時はまだ日高町で、小学校は三校(高麗・高麗川・高萩小学校)でした。子ども達の学校外の活動も「子ども会」を中心でした。そんな時代、飯能には少年野球チームがあり、サッカーチームもありました。やがて、町内に団地の造成が始まり、人口の増加、児童生徒の増加、学校の増設、教員の増員がありました。そんな時に子どもたちに野球を、サッカーをという新たな活動を起こした教員が現れました。また、埼玉国体の影響か、県の中でも子ども達にと、スポーツ少年団組織が広がり始めました。

そして、高萩小の学級単位で始まった野球活動が他校に広がり、次にサッカー活動となり、それぞれの三校が独自の方法で組織を作りました。やがて、この三校の組織をまとめようという機運が起こり、学校の教員を中心に、基本的には春から夏は野球、秋から冬はサッカー活動をし、各団体の組織の運営は各校に任せるという男子の団体(その後に、女子のミニバスのチームの組織)が出来ました。そして、これらをまとめて日高市スポーツ少年団連盟として、故 関 真氏 (元農協理事長・日高市長)を連盟会長にお願いし、日高(町)市長杯争奪の野球・サッカー・ミニバス大会を中心に活動が始まりました。

当初、運営は三校の体育担当教員が仲間の教員を説き、指導にあたり、父母の負担軽減を目的に県のスポーツ少年団に加盟せず(後に、加盟)、費用を極力おさえ、廃品回収・寄付等により、ユニホーム・バット・ボール等を購入し団の持ち物とし、大会の時はそれらを配布して臨みました。(あとで聞いた話ですが、先輩の着たあのユニホームを6年生になったら着たいという励みになった話もありました) 野球ではヘルメットもそろわざ注意を受け、サッカーではオフサイドも知らず、ひたすら突っ込めの世界でした。

そんな中、学校も三校(高根・高萩北・武藏台小)増え、子どもの会員も多くなり、指導者が多数必要になり、保護者や地域の方々にお願いするようになり、各団内に多くのボランティア指導者が誕生しました。新しく団地に入居され、団地内でも見知らぬ人同士、また団地と地域と人とのつながりも薄かった中、人と人のとの接点が生まれました。時には判定をめぐり不穏な空気になったり、ときには相手の好プレーに拍手を送るなど、こうした、交流の中で「地域の子どもたちは地域で育てる」の精神が生まれました。この根本精神のもと、実践して50年の月日が経ちました。桜咲く時期、桜の木の下で、語り合った子どもたちの声が聞こえます。長い旅路のようですが、あっという間の50年のような気がします。

日高市スポーツ少年団 30年まであゆみ

○昭和48年1月 日高市スポーツ少年団連盟が発足

・『学校教育とは別のもので心身の育成を図る』を目的として発足、連盟会長は関眞(せきまこと)氏、副会長は平井昭三氏と上野幸男氏となり、連盟発足と同時に高麗川スポーツ少年団・高萩スポーツ少年団が発足となる。また、第1回日高町長杯争奪少年サッカー大会を開催する。

○昭和48年4月 高麗スポーツ少年団・高根スポーツ少年団が加盟

・7月 第1回日高町長杯争奪少年野球大会開催する。

○昭和53年4月 高萩北小学校の開校に伴い

高萩北スポーツ少年団が加盟

・11月 第1回日高町長杯争奪ミニバスケットボール大会開催する。

○昭和55年4月 武蔵台小学校開校に伴い武蔵台スポーツ少年団が加盟(6団体となる)

○昭和57年1月 日高町スポーツ少年団10周年記念イベント

・近隣市町村から10チームを招きサッカー大会を開催する。

○昭和58年4月 埼玉県スポーツ少年団に加入し、名称を 日高町スポーツ少年団本部に変更

・初代本部長は三浦助藏氏(高根スポーツ少年団)となり、教育委員会が窓口となる。

・各競技(野球・サッカー・ミニバス)の運営は各専門部となる。

○昭和60年1月 日高ロータリークラブからの後援が開始

・これにより毎年、助成金を受けて各種大会運営に役立てている。

○昭和61年2月 日高町スポーツ少年団誌『あゆみ』発行

・発足14年目を迎えたとして誕生してきたかを記録としてまとめた。

○平成3年 日高市の発足に伴い日高市スポーツ少年団と名称を変更

・日高市になり、野球、サッカー、ミニバスの市長杯が新調される。

○平成4年9月 日高市スポーツ少年団創立20周年記念運動会を開催

・北平沢運動場で、全6団が集まり団対抗リレーやミニバスのキャッチボールやドリブル競争を行った。

○平成14年 日高市文化体育館(ひだかアリーナ)新設

・落成時のテープカットをミニバスの6チームのキャプテンが市長、議長とともに実行。

○平成14年 日高市スポーツ少年団30周年記念イベント

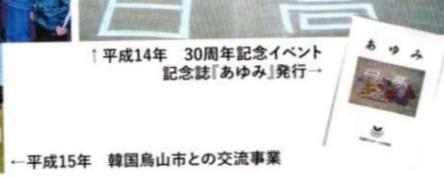
・野球、サッカー、ミニバスの記念大会を開催する。

・埼玉県本部より藤沼本部長、桑原事業部長を招き記念式典を実施し、同時に30周年記念誌『あゆみ』を発行する。

○平成15年 韓国烏山市との 友好都市スポーツ交流事業の開始

・サッカーの日高選抜チームを作り、交流大会を実施する。

・開催地は1年ごとに交代で選手は各団の一般家庭にホームステイする。



↑平成14年 30周年記念イベント
記念誌『あゆみ』発行

↑平成15年 韓国烏山市との交流事業



副本部長 岡野 一平



日高市スポーツ少年団の思い出



平成14~15年度10代本部長

顧問 金島 清志
(高萩スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えお祝い申し上げます。又、ここに記念誌を発行されることは、誠に意義深いことでありますからお慶び申し上げます。

20年前の事を思い出します。当時、本部長という大役を仰せつかった年に30周年記念事業『記念式典(会場日高アリーナ)記念誌発行』を実施する為に如何やって事業費用を捻出するか、数多くの人達の協力を頂き苦慮しながら費用を捻出し各事業を開催出来た事、今でも感謝を忘れる事が出来ません。ありがとうございました。

そして、私にとってはあつという間の『隔世の感』20年が経ちました。既に、卒団された子供達は立派に成長し社会人として大きく成長し家庭を築き円満に過ごされていると思います。これもひとえに創立以来、長きにわたり子供達の健全育成に全力を傾注して来られた小学校校長先生をはじめ教員の皆様、熱心で熱くご指導をして頂いた指導者の皆様、保護者(後援会)の皆様には心より感謝を申し上げたいです。尚、各団が抱える『少子化』課題で団員数の減少が続いている。何かと苦慮大変ですが更に6団で工夫しながら頑張って頂きたいと思います。この度、記念誌を発行するにあたって各委員の方々には大変ご苦労をお掛け致しましたこと厚く御礼を申し上げます。

終わりに、日高市スポーツ少年団の創立50周年を重ねてお祝い申し上げると共に関係者各位の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



平成16~17年度11代本部長

顧問 松田 征彦
(高萩北スポーツ少年団)

早いもので、日高市スポーツ少年団が発足してから50年の年月が経ちました。

この度、創立50周年を迎えて記念誌が刊行出来たことを皆様と共に慶びたいと思います。

昭和53年4月に高萩北小学校が開校になり、すぐに(故)鎌田氏と教職員の牧本先生が中心となり、高萩スポーツ少年団で活動していた児童を対象に、高萩北スポーツ少年団が発足しました。私のスポーツ少年団との係りは、当時野球を通じて付き合いがあった(故)鎌田氏に指導者に依頼された事が始まりです。高萩北スポーツ少年団が発足した当時は、ユニホーム、スポーツ活動に必要な用具が揃っていない中での船出でしたが、地域の方々の支援、協力をいただき、地域の支えがあって活動が始めたのを昨日のように思い出されます。日本スポーツ少年団の理念の中に、「地域の子は地域で育てる」ことを基本に置くとあります。団員の地域の文化催しや行事への参加はスポーツ少年団活動への理解を得るために重要なことだと思います。スポーツ少年団の子ども達と地域社会とのかかわりは団員の成長に大きな影響を持つと思います。私はその後、平成16、17年の2年間本部長を努めましたが、日高市の各スポーツ少年団の方々や地域の方々の応援や協力をいただいて無事努め上げることができ心から感謝しております。又一番の思い出として、韓国とのスポーツ交流で烏山市を訪問し、サッカーを通じての国際交流で両国の親善に関わったことを忘れることが出来

ません。現在は、少子化の影響で少年団活動が厳しくなってきていると聞きます、しかしスポーツを楽しむ児童がいる限り、日本スポーツ少年団の理念の根本は、複雑多岐にわたる現代社会に生きる子どもたちを「スポーツを通じて、心身ともに健全で、子どもらしい明るい表情を持った元気な子供に育てる」ことにあります。一人でも多くのこどもが学校以外の地域すなわち「子どものふるさと」で、大人も子どもも共に手を取り合って育っていくことを期待しております。今後も、日高市スポーツ少年団の益々の発展を、心より祈念申しあげます。



平成18～19年度12代本部長
顧問 田中 正人
(武藏台スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団発足50年おめでとうございます。

単位団武藏台スポーツ少年団の監督、コーチに始まり部長、団長そして市本部理事、本部長と顧問、合わせれば33年間関わらせて頂いた事になります。(思えば市スポーツ少年団歴史の半分以上を関わらせて頂いた事になります)

始まりは息子との時間を共有できるとの軽い気持ちで引き受け、彼らの卒団と共に終わる予定でした、しかし「青少年の健全育成、地域で子供を育てる」大義名分と自分の健康維持、さらには心地よい地域の人達との交流は自分の人生の安らぎでした。

何千人の卒団生、プロの野球選手やプロバスケットボールの選手等の選手も輩出し、スポーツ少年団での「夢を持ち、夢に向かい、何事もあきらめない」心の醸成は地域をはじめとする社会の中、それぞれの場でその一翼を担い活躍している卒団生達がいます、大変誇らしく思います。

50年の社会の変化は著しく、特にこの20年は激変です、変化に即した団運営に腐心され継続されている事に感謝いたします。

日本の少子化は止まりませんが、未来を担う子供たちの健全育成の一助になっているスポーツ少年団、次の50年にも期待します。



平成20～21年度13代本部長
顧問 大江 一蔵
(高根スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えお祝い申し上げます。

私自身も今年で延べ43年間スポ少に拘わってきました、当初は私の甥が高根レグルスに参加し、野球の指導としてお世話になりましたが、3年後に姪が高根コスモスに参加するようになり、時々体育館の外から見学していると当時の岡野先生からぜひミニバスの指導者をと、お説教があり今に至っています。

ここに記念誌を発行されることは、長きにわたり子供達の健全育成に全力を傾注して来られた校長先生をはじめ教員の皆様、熱心で熱くご指導をして頂いた指導者の皆様、保護者の皆様には心より感謝を申し上げたいです。

本部長当時の思い出としては武藏台パワーズ出身の戸村健次君がドラフト1位で東北楽天ゴールデンイーグルスのプロ野球の世界へ旅立つ場に本部長として携われた事がありました。また残念な事として鳥山市友好交流事業はサーズウィルスの流行、翌年には竹島領土問題の関係で2年間も

中止となった事です。

今後活動する上で、各団が抱える『少子化』課題で団員数の減少が続いている中ですが、この記念誌発刊を機に改めて日高市スポーツ少年団の魅力を伝えて皆さんで工夫しながら頑張って頂きたいと思います。

今後も、日高市スポーツ少年団の益々の発展を、心より祈念申しあげます。



平成22～23年度14代本部長
顧問 小俣 徳蔵
(高麗スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えお祝い申し上げます。

今まで支えて下さった本部役員や団長、指導者、そして小学校の先生方、地域の方々からの子どもに対する暖かい教えがあったからだと思います。創立50周年を迎えたことを皆様と共に慶びたいと思います。

私が高麗スポーツ少年団に拘わったきっかけ飯能市役所で野球をやっていた経験から(故)平山さんからの説教で指導者としてやっていましたが、その後息子が入団することなり親として直接指導者する事は避け、審判部として裏方へ回り、負けた時の悔しさや勝った時の嬉しさなど親子ともども楽しい経験をさせて頂いた思い出があります。

その後、持ち回りで日高市スポーツ少年団本部を本部長として活動しましたが、前年の2年間実施出来なかった鳥山市友好都市スポーツ交流事業は問題なく実施でき、また各専門委員会での活動計画も予定通り実施されました、大きな問題もなく平穡な2年間だったと思います、木村幹事はじめ本部役員の皆様には大変お世話になりました。

近年は少子化に伴い、学校も小中一貫教育制度に切り替わろうとしており、単位団でのチーム編成が出来ず苦慮していますが、活動当初の地域の方々の支援、協力をいただき、支えがあって活動が始めた事を思い出し、「地域の子は地域で育てる」ことを基本に置き、活動して頂きたいと思います。

今後も、日高市スポーツ少年団の益々の発展を、心より祈念申しあげます。



平成24～25年度15代本部長
顧問 石田 哲夫
(高麗川スポーツ少年団)

創立50周年おめでとうございます。

スポーツ少年団との関わりは高麗川フェニックスで娘がお世話になり、当時は先生方が指導者として活動していましたが先生方の移動などにより、高麗川フェニックス女子の指導者となりました。

本部長は高麗川スポーツ少年団で副団長でしたが本部の活動内容もよくわからないまま本部長としてご指名をされました。高麗川フェニックスでミニバスの指導を行いながら本部の活動していました。

平成24年4月から本部長として活動していましたが、当時は日韓の友好関係が悪くなり平成24年度の日高市韓国スポーツ交流は無くなっています。次年度に日高市での受け入れ交流があり、サッカーを総合運動公園で行われました。

在籍中に現在の本部規約は少年団活動の変化に伴って合わなくなっているとの意見が理事会で

多数あり、改定に高萩北の団長さんの協力ご苦労をかけながら多くの時間を要して改定を行いました。現在もミニバスの指導をしていますが団員が少なく、活動方法が低学年から高学年まで同時に活動するために、指導方法が難しくなっていると感じています。



平成26～27年度16代本部長
顧問 増田 進
(高萩スポーツ少年団)

私が高萩スポーツ少年団に係わり始めた昭和62年頃、当時は4年から6年までの学年ごとにチームを編成できるほど団員数も多く、指導者が不足する中でバスケットボールには素人の私がミニバスの指導者になり、以後30数年を経過することになりました。

日高市スポーツ少年団本部では、平成26年度から2年間本部長を勤めさせていただきましたが、本部長の職務で印象的だった事は、日高市の友好都市(烏山市)スポーツ交流事業で、平成26年10月に日高市スポーツ少年団サッカー選抜チームとともに韓国の烏山市に遠征して交流試合等をさせていただいたこと、翌年の10月に韓国の烏山市からサッカー選抜チーム選手団を迎えて交流試合等をさせていただいたことです。このような国際交流の場に参加できたことは、子供たちの成長の大きな糧となることだと思います。

スポーツ少年団は、“目標に向かって、がんばる心と身体を育てる”子どもたちの健全な成長に欠くことが出来ない“必要な場所”であると思います。日高市スポーツ少年団の創立50周年をお祝い申し上げると共に、日高市スポーツ少年団本部が、日高市の各スポーツ少年団活動の要であり続けることを切に願って、お祝いの言葉といたします。



平成28～29年度17代本部長
顧問 美松 長徳
(高萩北スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団創立五十年おめでとうございます。

日高のスポ少が長きにわたり続けてこられたのは歴代本部長、役員や各団の団長、指導者の皆さんの子どもに対する暖かい教えがあったからだと思います。また、各小学校や地域の方々の応援があったからだと思います。

私も高萩北スポーツ少年団に関わって三十四年程になります。入団当初から八年ほどは男の子と野球サッカーをやり、その後、本部顧問の今も、女の子とミニバスケットを楽しくやらせてもらっています。

全団ではありませんが、一人の子どもが野球、サッカーやるという他の市ではあまり見られない取り組みを日高は最初から行っていることは子どもの為には素晴らしい事だと思います。この取り組みは将来にわたって続いていることを嬉しいと思っています。

私が本部長での思い出の一つに日韓友好サッカー交流があります。韓国烏山市の暖かいおもてなしや子供達のサッカーを通しての友好を深めました。日本での開催時はPK合戦でゴールキーパーをやらせて頂き楽しい一時を過ごさせて頂きました。



今後は少子化とスポーツの多様化で団員集めも大変かと思いますが子供達にスポーツの楽しさを教えてあげて下さい。これから先10年、20年も日高市スポーツ少年団が子供達に夢を与えるながら発展する事を願っています。



平成30～令和元年度18代本部長
顧問 宮岡 孝二
(武蔵台スポーツ少年団)

平成最後の年と令和最初の年の本部長を務めさせていただきました。
少子化が進み各団員不足が深刻になり、日高市役所市民スポーツ担当のご協力を得て公式ホームページにスポーツ少年団の紹介を掲載したり、活動紹介や募集のポスターを各団長と一緒に取り組みました。

平成30年に第13回友好都市スポーツ交流事業の団長として大韓民国烏山市に行きました。熱烈な歓迎を受け、翌年は迎え入れる予定でしたが慰安婦像問題で日韓関係が悪化したため中止となりました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により中断されていますが、早く再開され第14回目が開催されることを祈願しております。

今後、日高市ではコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進して行くなかスポーツ少年団の役割が大変重要だと思います。



令和2～3年度19代本部長
顧問 菊池 武彦
(高根スポーツ少年団)

日高市スポーツ少年団が50周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。一口に50年と申しましても、1つの事業や組織が、これほどの長期間継続していくことは、たやすいことではなく関係各位の並々ならぬご努力の結果と感謝いたします。

さて、私が本部長を務めました令和2年度から3年度にかけては、まさに新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた時期でした。ワクチン等もなく、とにかく活動を制限している時期でした。そんな中でも、子供たちのために、何とか活動の場を作つてあげたいという指導者、関係者の方の熱い思いがあふれています。そんな思いを制限するような決心ばかりをせざるを得ない2年間はまさに忸怩たる思いの連続でした。しかしながら、このような逆境があったからこそ、各指導者、関係者の方々が、子供たちのために、という本当に熱い思いで活動されていることを改めて実感することができました。

今後も、子供の減少、その他スポーツ少年団を取り巻く環境は予断を許さないと思われます。しかしながら、団員、指導者、保護者、関係者が力を合わせて頑張れば、日高市スポーツ少年団が、ますます発展していくことができる信じております。私も、微力ながらご協力できればと考えております。

改めまして、今後の日高市スポーツ少年団のますますのご発展と、皆様のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。

日高市スポーツ少年団専門部紹介



野球専門委員会 委員長 斎藤 弘

日高市スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。2018年より野球専門委員会の委員長として野球専門委員会理事の皆さんと春夏の半年間ではありますが、子供たちの健全育成を目的とし各事業を開催しています。本年度においては、コロナ感染防止対策を徹底しての各大会を開催しました。

日高市スポーツ少年団の問題もあります、団員の減少により、各カテゴリーでの大会が出来ません、市長杯においてはAブロックでは4チームでの大会

になり、単独3チーム、連合1チームとなりましたが、暑い中、各チーム一丸となって優勝旗目指して頑張っている姿は昔と変わらないものだと思います。

埼玉県スポーツ少年団主催の西部ブロック大会予選では、市内から3チーム出場し、ここ数年県大会出場権を獲得するレベルとなっています。今後も、コロナ禍に伴い厳しい状況には変わらないと思いますが、理事一丸となって、野球委員会を盛り上げて行きたいと思います。



一年間の大会日程及び事業概要(◆主催大会・◆参加大会)

◆3月最終日曜日 埼玉県スポーツ少年団交流大会総合開会式(県営大宮球場)

この開会式は5月初旬に開催される西部ブロック予選会及び8月下旬に開催されるスポーツ少年団軟式野球交流大会(ロジャースカップ)の県大会に向けた予選出場の開会式です。

◆5月中旬 日高市リーグ戦

各団6年生、5年生のチームのリーグ戦です。今年度の選抜チームの選抜及び日高市長杯のシード権を決めます。通年では6年生、5年生以下と分けてリーグ戦を実施していましたが、21年度から子供の減少により6年、5年合せての日高市リーグ戦として開催しています。

◆5月下旬 西部地区少年野球連盟夏季大会

各地区で予選会が開催されます。6年生中心の本大会と5年生以下のジュニア大会が開催され、日高市ではジュニア大会の会場を請け持っています。

◆5月初旬 西部ブロック大会予選会

前年度9月開催された日高市野球連盟会長杯の優勝・準優勝のチームが市代表で出場します。全国に繋がる大会です。

◆6月中旬 埼玉県学童軟式野球大会(ガスワンカップ)

日高市リーグ戦で各団より選抜された6年生だけの選手により、全(オール)日高として参加します。

◆7月初旬 西部地区少年野球連盟夏季大会決勝大会

坂戸市総合運動公園軟式野球場で5月末から始まった夏季大会で各ブロックの優勝チームがトーナメントで優勝を目指します。

◆7月中旬 日高市市長杯争奪大会

会場を横手台グランドに移し、6年主体のAブロック、5年生以下のBブロックに分けて開催され、各チーム優勝旗目指しての大会です。

◆8月初旬 飯能防犯大会(飯能警察署主催)

飯能市民球場を始め、阿須グランドで、飯能市、日高市のスポーツ少年団のチームで行われる大会です。

◆8月中旬 西部ブロック予選会(ロジャースカップ)

日高市長杯のAブロック優勝、準優勝チームは西部ブロック大会予選会へ市代表として出場します。

◆8月中旬 飯能日高ジュニア交流大会

4年生以下のチームで飯能市と日高市での交流を目的として1年ごとに持ち回りで開催されます。

◆8月下旬 日高市4年生大会

日高市の4年生以下のチームでの大会です。守りの長い試合になりますが、一生懸命にボールを追っています。

◆8月下旬 日高市6年生交流大会『顧問杯』

日高市スポーツ少年団顧問の方々からの後援により、野球シーズン最後となる6年生のみの思い出として全員が集まり混成チームを作り交流を図る大会です。(お土産付き)

◆9月初旬 日高市野球連盟会長杯

日高市の5年生以下のチームでの大会です、翌年の春の西部ブロック大会の代表権を兼ねて行われます。

◆2月初旬 審判講習会

次年度の野球シーズンを迎える前に各指導者及び県公認審判員の講習を行います。

★その他の活動 ~西部ライオンズ野球教室~

毎年ではないですがプロ野球選手の指導の下、子供たちレベル向上を図る目的で開催してます。

2022年度 全日高チーム



2022年度 6年生交流大会



(2017/4月開催時写真)



日高市スポーツ少年団専門部紹介



サッカー委員会 委員長 塩月 貴弘

日高市スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。2022年度の日高市スポーツ少年団サッカー専門委員会の委員長を初めて経験させていただいております。

サッカー専門委員会は委員の年齢経験問わず素晴らしい結束力で秋冬のスポーツ少年団サッカーシーズンを盛り上げおります。サッカー専門委員会の大きな行事としては11月に日高市役所主催の国際スポーツ交流事業があります。日高市役所のサポート役としてサッカー専門委員会が動いております。日高市と友好都市である韓国烏山市、両市の選抜チームによるサッカー交流試合はある意味「小さな日韓戦」です。子供達にとっても大変貴重な体験になっております。10年ほど前、我々が日高市選抜チームを率いて韓国烏山市へ出向き試合をした時は『アウェイの洗礼』を受け、この試合の重要さを現地を感じました。ここ数年はコロナ感染拡大の影響等で

スポーツ交流事業も中止が続いているますが、いつかまた再開できる事を強く願っております。

12月には日高市長杯争奪サッカー大会、2月には日高カップを日高市サッカー専門委員会が取り仕切り、大会を盛り上げております。どちらの大会も寒風が吹く中、美しい日和田山に見守られ、巾着田サッカーグラウンドで子供達の熱い試合が繰り広げられます。

少子化が進む中、団員数も減少しております。各団、単体で試合ができない学年も増えてきましたので連合チームを作り大会参加する事も増えてきました。時代の流れもありますが、日高市のスポーツ少年団のあり方も真剣に考えて行かなくてはなりません。日高市のスポーツが出来る環境は素晴らしいです。我々がスポーツ少年団の魅力を発信する努力をし、市内の皆様に理解と協力を得て少しでも団員数を増やし、子供達がスポーツを思い切り楽しめる少年団を目指して行こうと思います。



一年間の大会日程及び事業概要(◆主催大会・◆参加大会)

- | | | | |
|-----------|-------------------|--------|---------------|
| ◆9月上旬 | 少年団サッカー大会西部地区予選 | ◆12月上旬 | 日高市長杯争奪サッカー大会 |
| ◆9月下旬~10月 | 青梅武蔵秋季サッカー大会 | ◆1月上旬 | 飯能正月大会 |
| ◆11月上旬 | 日高市国際スポーツ交流事業サッカー | ◆1月下旬 | 青梅武蔵冬季サッカー大会 |
| ◆11月上旬 | 飯能日高地区郵便局長杯 | ◆2月上旬 | 日高カップ |

2022年度各チームの活動状況

武藏台フェニックス



日高SC(高学年) 高麗川・高麗・高根 連合チーム



日高SC(低学年) 高麗川・高麗・高根・高萩 連合チーム



高萩北アンタレス



高萩ジャックス



高麗川フェニックス 男子

- ・1995年から男子チームがスタート
- ・1999年から高麗川小以外の子も入団
- ・県大会 4回出場
- ・2014年 スポ少県大会 第4位
- ・2014年 県ミニバス大会 Cブロック3位
- ・2017年 県ミニバス大会 第9位
- ・2018年 県ミニバス大会 敢闘賞



高麗川フェニックス男子【2022年日高カップ】



高根コスモス【2017年日高カップ】

高根コスモス

- ・平成3年 全国大会出場
- ・県大会 10回出場
- ・北関東大会優勝、関東大会出場等
- ・さざなみ、明治、横須賀大会等参加

児童数が少なくなり、高萩、高麗の協力で活動しています。人数は少ないですが、楽しく頑張っています。



高麗フリーバーズ・高根コスモス合同チーム
【令和元年 U12冬季バスケットボール交流大会優勝】

高麗フリーバーズ

- ・県大会 5回出場
- ・平成20年から「高麗フリーバーズ」として数年活動
- ・つくばサマーゲーム・ちちぶサマーキャンプへ参加
- ・平成22年度理事長杯準優勝
- ・平成29年度沼田アップルフェスティバル参加
- ・令和元年度U12冬季バスケットボール交流大会優勝
- ・令和4年度は高麗・高萩・高根合同で活動中



高萩エンジェルス【2022年女子】

高萩エンジェルス

- ・県大会 10回出場
- ・埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会優勝1回

令和3年度より、高萩小・高麗小・高根小のメンバーと合同で活動、各種大会に参加しています。令和4年度のチームメンバーは、6年1名、5年1名、4年6名、3年5名、2年4名、1年2名の合計19名で、週に3日仲良く練習しています。



高麗川フェニックス女子【2016年日高カップ】

高麗川フェニックス 女子

- ・県大会 22回出場
- ・関東大会 3回出場

上下関係なく、仲間を助けるプレーと頼もしい上級生が最後までボールを追いかける気持ちでコートに立っているのを観て、下級生も負けずと練習を頑張っています。



高萩ボーイズエンジェルス【2022年男子】

高萩ボーイズエンジェルス

2017年高萩小・高麗小の男子合同チームとして結成して今年で5年目、高萩ボーイズエンジェルスとして各種大会に参加しています。令和4年度のチームのメンバーは、6年8名、5年2名、4年5名、3年3名、2年3名、1年1名の合計22名です。練習は週に3回、高萩小、高麗小の体育館をベースに元気に活動しています。



武藏台メイツ【2014年市長杯】

武藏台メイツ

- ・県大会12回出場

仲間と力を合わせて相手チームに立ち向かう事をメイツで学び、高校では名門校のバスケットチームに入り、日々のハードな練習に耐え大活躍したメンバーもいます。



高萩北チェリーズ【2010年市長杯】

高萩北チェリーズ

- ・平成4年 全国大会出場
- ・県大会 7回出場

土、日をメインに活動しています。気がつくと運動神経も良くなっていて、ちょっとやそっとの事では、くじけない強い心が育っています。学年関係なく仲良く楽しく練習に取り組んでいます。走り負けないチームを目指して懸命に走っています。

卒団員からのメッセージ

50周年に寄せて

日本プロ野球
東北楽天ゴールデンイーグルス
武藏台パワーズ出身

戸村健次

武藏台パワーズの皆様、並びに日高市スポーツ少年団に関わる皆様方、この度は創立50周年本当におめでとうございます。私の原点とも言える武藏台パワーズでの日々、卒団から20年以上が経ちましたが、当時の記憶は今も色あせることなく私の心の中に深く刻まれております。

当時は学年ごとにチームが分かれるほど人数も多く、地域ではかなりの強豪チームとして名を馳せていました。私は当時、ピッチャーではなく野手として打線の中核を担っていました。とにかく打つことが大好きで、どうやったら遠くに飛ばせるのか、それだけを常に考えて日々の素振りに明け暮れていました。スポ少の練習の無い平日の放課後は、チームの友達と公園に集まって野球の練習をしていました。寝ても覚めても野球のことは常に頭の片隅に置いて、いつか絶対プロ野球選手になるんだと夢見ていた、そんな小学生時代でした。

それから10年後、ピッチャーとして東北楽天ゴールデンイーグルスにドラフト1位で入団し、10年間のプロアスリート生活を送ることができたのも、武藏台パワーズで培った“考える習慣”と“継続する習慣”的おかげだと思っています。

スポーツの本質は自分自身が楽しむことにあると私は思っています。しかし、どんなスポーツも一朝一夕に上手くなることはなく、飽くなき“継続”と“反復”、これのみが自分自身に確固たる技術を与えてくれるのであります。そこには辛いこと大変なことがたくさん待ち受けていることでしょう。楽しむことが大事と言っておきながら矛盾するかもしれません、その辛さを乗り越えた先に必ず大きな勝利の喜びや達成感が待っています。そこにスポーツの全ては詰まっていると私は思います。

野球を楽しむこと、辛いことから逃げないこと、練習を継続する力を育むこと、私が武藏台パワーズで培った力です。

これからプロ野球選手を目指す子どもたちも、今この瞬間に全力を注いで、二度と返ってこない今日という毎日を楽しんでください。



1999年卒団生

奈良美奈(旧姓岡田)

50周年に寄せて

Wリーグ(バスケットボール女子日本リーグ)
山梨クィーンビーズ(旧甲府クィーンビーズ)

高根コスモス出身 岡田姉妹



2000年卒団生

岡田美香

この度は、日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。この記念すべき節目を、卒団生として皆様と共に祝いできることを大変嬉しく思います。

卒団後、20余年。振り返りますと、常に熱心に私達に向き合って指導して下さったコーチ・監督の方々や、共に過ごした大切な仲間、いつも応援してくれた両親・大切な仲間のお父さんやお母さんが支えてくれたおかげで今の私達があるのだと心から思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私達姉妹が入団したのは1994年。当時、姉の私は2年生・妹は1年生でした。入団したきっかけは、母からの『ミニバスをやってみないか』との誘いからでした。『やってみたい』と言ったものの私は『ミニバスって何だろう? 小さいバス?』と訝りながら体育館に行ったり出や、妹は1年生で入団が出来ない学年でしたが、『入りたい』と大泣きして団長の大江さんを困らせて特別に入団させてもらった思い出は懐かしく今で楽しい素敵な思い出です。当時の私達からすれば、入団をきっかけにバスケットボールの選手になりたいという夢を語る程、こんなにもバスケットボールに魅了され、本当にバスケットボールの選手になることになるとは思いもしませんでした。沢山の方々に支えられ、恵まれた環境の



中でバスケットボールを通じ、心身ともに鍛え精進して参りました。スポ少時代に積み上げた、挨拶の大切さや、仲間を想う優しい心を育てること、自ら考えて行動し、夢を実現させる為に自分の選択を信じて切り開いていく強い信念が、今の私達の人生を豊かにしているのだと思っています。思うようにいかない日々や辛い時期があっても、スポ少での経験が人生の糧となり、その経験が今でも心の支えとなっています。私は母になり、来年度6年生になる娘にバスケットボールの楽しさを教え、妹は今でもクラブチームでバスケットボールを楽しんでいます。

今、私達がスポ少で頑張っている子ども達に伝えたいことは、『自分の選択を正しいものにする。』ということ、『やればできる』ということです。自分が生きている中で、必ず『選択』を強いられる場面が少なからず出てきます。その中で応援してくれる人も居れば、心無い言葉を浴びせる人もいるかもしれません。でも、その『選択』を『正しい』ものにするかどうかは、『自分次第』であることです。少子高齢化が進んでいる現在ですが、これからも日高市スポーツ少年団から、未来を担う子ども達が輩出されることを心より願い、日高市スポーツ少年団の益々のご発展皆様方のご活躍を祈念致しましてお祝いの言葉とさせて頂きます。

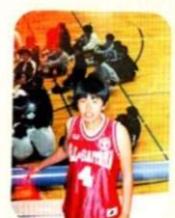


奈良美奈(旧姓岡田)



岡田美香

高根コスモス→高根中学校→埼玉県立入間向陽高等学校
WJBL 甲府クィーンビーズ→関東実業団リーグ メディセオ
ミニバス → 埼玉県西部選抜に選出 2004年埼玉国体強化指定選手
中 学 → 県大会出場 埼玉県選抜 ジュニアオールスター
富士ゼロックスカップに県代表として出場
高 校 → 県ベスト4 関東大会出場
2004年彩の国まごころ国体 埼玉県3位
社会人 → WJBL甲府クィーンビーズ 1年で怪我により移籍
関東実業団リーグ メディセオ 引退



卒団員からのメッセージ

50周年に寄せて

元ちふれASエルフエン埼玉 前NGUラブリッジ名古屋

高萩北アンタレス出身

永島自然

この度は、日高市スポーツ少年団創立50周年記念、誠におめでとうございます。
この記念すべき祝事に関わられたこと大変嬉しく思います。

また、迎えるにあたりこれまで関わってくださった関係者の方々、日々見守りご
尽力くださっている指導者の方々、保護者の皆様の協力なくしては迎えられな
かったことと思います。



小学校時代の6年間、高萩北アンタレスの仲間と日々、野球とサッカーを通じてスポーツの楽しさはもちろんのこと、人としての礼儀やコミュニケーションもご指導頂き、当時はご迷惑おかげしたことなど多々ありました。しかし、月日が経ち今思い出すと、すべての原点がそこにあったなど身に染みて感じております。

私は、そこでサッカーの虜になり、その道に進むことを選びました。たくさんの苦悩、挫折はもちろんでしたが、アンタレス時代に培った誰よりも努力すること、最後まで諦めないこと、何事にも感謝を忘れないことを常に心に置いて、日々やり遂げた時の高揚感を糧に社会人まで大好きなサッカーを続けられることができました。今の私があるのもアンタレス時代に日々を共にしてくれた仲間、

私の周りでいつも応援し、見守ってくださった皆様には当時直接伝えることができませんでしたが、この場を借りて少しでも感謝の気持ちを届けられたらと思います。ほんとうにありがとうございました。

また、大人になって戻れる場所があること、とても嬉しく思います。

最後に、今スポーツで日々頑張っている少年少女の皆様、嬉しいこと、苦しいこと、楽しいこと、悔しいこと、それぞれたくさんあると思います、大丈夫! 全部未来に繋がっています。どんなことでも継続してやり続けた先には、その人にしかわからないものが絶対にあります。そして、その経験はこれから的人生何をするにも必ず糧になると、私はサッカーを離れた今でも大切にして日々過ごしております。なので、今ある環境に感謝し、今の自分が将来の自分を作っていることを忘れずに、日々何事にも一生懸命に取り組み全力で楽しんでください。きっと素敵な未来が待っています(笑)

これからもスポーツ少年団に関わっている皆様のご健康とご発展を心から願っております。

在籍

2005年～2010年 高萩北アンタレス
2011年～2013年 AS エルフエン埼玉マリ U15
2014年～2016年 AS エルフエン埼玉マリ U18
2017年～2018年 ちふれ AS エルフエン埼玉
2019年～2020年 NGU ラブリッジ名古屋

主な活動

2011年 U15 全日本 第3位
2012年 U15 全日本 ベスト8
2013年～2015年 U18 全日本 ベスト8



日高市スポーツ少年団 栄光の記録

○平成3年3月 高根コスモス 全国ミニバスケットボール大会出場



⑪ 埼玉県
高根コスモス

監督 茂木智孝
コーチ 石川智穂
マネージャー 中嶋美代子

番号	氏名	学年	身長
4	弓子	6	161
5	真利恵子	6	149
6	永井祐香	6	148
7	星野冲	6	161
8	神管三恵	6	151
9	藤川祐美	6	155
10	小長谷知香	6	152
11	長谷川田	6	154
12	町池田	6	146
13	池田	6	154
14	谷川愛穂	5	145
15	長谷川美代	5	153
16	青木順美	5	147
17	長谷川晴美	5	150
18	長谷川友美	6	166

○平成4年3月 高萩北チーリーズ 全国ミニバスケットボール大会出場



⑯ 埼玉県
高萩北チーリーズ

監督 棚橋和広
コーチ 宝川法彦
マネージャー 山路涼子

番号	氏名	学年	身長
4	阿部悦子	6	155
5	和田めぐみ	6	153
6	石田まい	6	152
7	谷吉里佳	6	156
8	宇上愛実	6	156
9	井松理加	6	155
10	稻城真	6	156
11	福輪理加	6	147
12	鈴木紗理	5	146
13	鷲崎玲佳	5	149
14	高橋清千	5	142
15	橋津春子	5	142
16	阿久山希子	5	152
17	神野雅麻	5	145
18	原優子	5	147

○平成4年8月 武蔵台パワーズ 埼玉県スポーツ少年団少年野球大会優勝



代表 田中正人

選手 森耕太郎 山本佑樹 相馬満 山田哲郎 酒井未来 棚木直人
村松主 江頭嘉郎 渡辺和弘 伊澤一尋 橋本直信 折原真吾
桧山朗 川越康文 菊地啓太 馬場顕一 引田慎也 本多哲郎
川浦拓郎 菅谷寿洋

○平成2年、平成4年、平成5年 高麗川フェニックス 第7回、第9回、第10回



監督 武藤義雄 (第10回時のメンバ)

選手 神田亜矢子 大野真貴子 新井真理子 関根みさ子
大野香織 田中香織 伊藤祥子 野村光枝
中園裕美子 松倉敏江 高橋美奈

○平成6年 高萩エンジェルズ 第11回 埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会 優勝



監督 岡野一平

選手 國枝佳代 橋本綾子 馬籠彩 木村友美
依田美里 佐藤美鶴子 日原愛子 町井めぐみ
北村鈴夏 増田朋子 東海枝真弓 千須和好

各単位団の紹介

武藏台スポーツ少年団



団長：林 俊和



武藏台スポーツ少年団は、昭和55年5月に武藏台小学校を活動の拠点として誕生しました。市内の6団の中では一番新しいスポーツ少年団です。活動当初は、武藏台地区の子供たちだけでしたが、横手台地区に新しく分譲地区が形成されてから、横手台地区の子供たちもメンバーに加わり、現在は野球部、サッカー部の2部（※バスケットボール部は活動休止中）が通年で活動しています。発足当初は、小学校の先生方が中心になって団員募集から指導まで行っていましたが、現在では全ての運営を保護者やボランティアの指導者で行っています。

令和4年度の団員数は総勢37名です。世の中の少子化の流れもあり、当初と比べ団員数は減少していますが、小学校の生徒数に対する団員比率は市内の6団の中では一番です。地域のみなさんに暖かく見守られ、人数は少なくとも、子供たちは元気いっぱいに活動しています。

日高市のスポーツ少年団の発足から50年という長い年月が経ち、スポーツ少年団を取り巻く環境も少しずつ変化してきています。そして、これからも変化し続けていくと思います。近い将来に起こる変化として、小中一貫校の設立や、部活動の地域移行があり、これに伴い、これまでよりも更に学校や地域と密接に連携した活動が必要になってくるでしょう。少子化の流れの中では、地域のクラブチームや他の団体との発展的な融合も選択肢の一つかもしれません。将来を見通すことは難しいですが、どんな時でも環境の変化を柔軟に受け入れ、常に子供たちの目線で何が一番ベストなのかを地域のみなさんと工夫しながら一緒に考え、進化していくスポーツ少年団でありたいと思います。

野球部（武藏台パワーズ）



創立年月日：昭和55年5月8日

活動場所：武藏台小学校

指導者数：11名

団員数：37名



野球部監督 青木健一

武藏台パワーズは、1年間を通して「元気で明るい子供達」とスポーツを通じて、野球のルールはもちろん、「挨拶・考える力」が身に付き、「自主性・主体性」を持って行動が出来るような選手になってほしいと思い、指導者・親コーチ・保護者とともに協力し、地域の方々に支えて頂き、野球活動を行っているチームです。

この3年間は新型コロナ感染症の影響で活動自粛や公式戦の中止などがありました。

その中、自粛中は自主的に出来ることを自ら考えた自主練を行っていました。今年度（R4）は、公式戦、練習試合も出来る状況になり、公式戦では勝敗では無く「価値（勝ち）がある内容」にこだわり、練習試合では練習の成果の確認を行い、練習では振り返りをして、次に前進することが大事と考え、日々の活動を行っております。

これから多くの子供達とともに野球活動を行っていきたいと思いますので、気兼ねなく参加して頂きたいと思います。また、応援も宜しくお願ひ致します。



野球部キャプテン 野口 権司

僕がパワーズのキャプテンとして心がけたことは、「みんなが楽しく野球ができる」ということです。

キャプテンは監督やコーチから色々言われることもあるけど、それをいかしてみんなに教えてあげられたらいなと思っています。初めは声が小さかった試合も、今では全員が大きな声を出すようになりました。

大人になっても、パワーズで頑張ったことを忘れません！みんなもぜひパワーズで野球をやりましょう！



必勝祈願（高麗神社にて）



しっかり挨拶（基本です！）



試合中（真剣に話を聞きます）



タッチ！ナイスバッティング！



しまっていこーゼー!!



明治安田生命野球部と野球教室



親子大会（ガチで勝負だ!）



パワーズ恒例 カレーマラソン うまっ!



卒団式（父兄は感動で涙。。）

サッカー部（武蔵台FCフェニックス）



phenix



サッカー部代表 三田英紀

武蔵台FCフェニックスは、武蔵台スポーツ少年団のサッカー部として団員・指導者・団員の父母によって運営されています。現在も、1年生から6年生までの子ども達が元気にボールを追いかけています。

開始当初の時代から平成、令和と時を経てサッカーの指導方法やその考え方も様々に変化してきました。大人も子供もその時々のスポーツ環境に適応しながら今まで取り組んでまいりました。そんな中でも、子供たちの成長著しい時期に思う存分体を動かし、サッカーを楽しみ、参加する機会、環境を提供したいという想いは変わりません。またサッカー以外のレクリエーション活動、野外活動、地域活動への参加も続けてまいりました。指導者や保護者だけでなく、地域の皆様にかわいがってもらえることも少年団ならではのことなのだと思います。

少子化も加わり、年々部員も少なくなっている中、どのような活動を展開していくかという工夫はこれから課題です。ですが、変わらない想いを繋ぎながら活動を続けてまいります。

サッカー部 6年生代表の3人に、

①サッカーの楽しいところ ②自分が成長したところ についてインタビューしました。



①いいプレーをしたときに互いに尊重できるところ。
②状況判断とパスの精度。

柊原 遼

①点が取れるところ。
②周りが見られるようになったところ。

梶谷虎太郎

①パスを回して相手を抜くところ。
②周りを見ることが出来るようになったところ。

田淵 誓



仲間と楽しく、厳しく練習



絶対勝つぞー！オー！！



試合中（真剣に話を聞きます）



カウンターだ！ いけー！



優勝しました～！



みんな楽しみ夏合宿



スイカ割りして実食中



巾着田で川遊び きたー！！



卒団式 みんなよく頑張りました

※現在は活動休止中

バスケットボール部（武蔵台メイツ）



Mates



お楽しみお弁当タイム



練習は小学校の体育館



バランス一笑



優秀なコーチ陣のおかげでみんな上達



スローガン みんなに力をくれました



いつの日か活動再開するぞー！？

各単位団の紹介

高麗スポーツ少年団



団長:木村美智雄

創立年月日:昭和48年4月1日

活動場所:高麗小学校

指導者数:11名

団員数:11名

高麗地区は、代々の家庭が多いと言う土地柄の為転入して来る家庭も少なく減少の一途を辿っています。小学校に在学する児童数そのものが激減し数年後には小中一貫校となる予定です。ここ数年でスポーツ少年団に加入する児童も目に見えて減少しています。

野球・サッカーは1年を半年間ずつ(4月～9月 9月～3月)ミニバスは(女子・男子)が1年間を通して活動をしています。現時点では団員数の激減により団独自では活動が出来ず他の団と合同での大会参加を余儀なくと言う状態が続いています。

又、指導者におきましては、休日を団員の子供達の為に長年にわたりボランティアの精神で熱心に指導して頂き有り難い事と思っています。その指導結果が各大会に反映されています。何とか団員数を増加させて行ければ良いのですが現時点ではかなり難しいかもしれません。



清水 学 半田 栄太郎 宮村 龍 半田 蒼二郎
渡辺 快生 マクジルトン ルーピ 藤野 真之 濵谷 日和
新井 佳奈子



山本 修 和田 茂 武田 達也
木村 美智雄 和田 勝利 濵谷 智大



関澤 良 森田 岳斗 森田 擁 半田 健吉
成澤 明海 太田 理温 相澤 翔輝

ミニバスケットボール【高麗フリーバーズ】



とても多くの方々にご協力いただき長い間楽しい活動を続けてくることができました。
歴代の選手の集合写真を載せてみました。載っていない人もあるかもしれません。ごめんなさい

野球【高麗ツインズ】



サッカー【高麗ツインズ】



各単位団の紹介

高麗川スポーツ少年団



団長：宮越昭彦

創立年月日：昭和47年4月1日

活動場所：高麗川小学校

指導者数：28名

団員数：91名



高麗川スポーツ少年団は、昭和46年に当時高麗川小学校教諭であった渡辺俊雄氏により立ち上げられた高麗川少年サッカーチームをその前身として、昭和47年、町内に少年団連盟が結成されたことを受けて、正式にスポーツ少年団として発足しました。

発足当時は、高麗川小学校4～6年生の児童約70名の団員でスタートしました。昭和48年からは、野球の活動も開始し、1つのスポーツ少年団において、野球とサッカー2種目の競技を行う活動が始まりました。

また、当時、「女子にも是非スポーツの場を」との声があり、翌49年には女子ミニバスケットボールチーム'フェニックス(女子)'として、それぞれが活発な活動を行なっており、現在に至っています。

発足当時には、高麗川小学校の先生方には、スポーツ少年団の立ち上げ、各々の競技における情熱のこもった指導等、多大なご尽力を賜りました。現在は、その思いを引き継いで、高麗川スポーツ少年団OB・OG、高麗川小学校卒業生、保護者等が団員の指導にあたり、団と後援会とが一丸となって活動しています。

高麗川小学校における運動会やマラソン大会等の行事では、毎年、団員の活躍が目立ちます!!日々、暑い中や寒い中の練習で培われた体力の賜物です。また、学校内でも学年関係なく、団員同士が会うと声を掛け合い、交流の幅も広がります。

高麗川スポーツ少年団では、スポーツと団活動を通して、指導者と保護者(団と後援会)が一体となって子ども達の健全な育成を支援するため、今後においても団の更なる発展を目指して努力を続けていきます。

『50周年記念誌の発行を祝って』

日高市スポーツ少年団50周年記念を迎えるにあたり関係各位の皆様と共に大変なつかしく深くお慶び申し上げます。

高麗川スポーツ少年団の指導者として関わった35年、そして団長として15年あまり団と関わったのもスポーツ少年団本部各団の指導者のおかげと感謝申し上げます。当時の事が走馬灯のようであり、また懐かしく良い思い出であります。

今日、色々と多様化して各団も団員の減少でチーム作りも大変だと思っています。一人でも多くの子ども達がスポーツ少年団に入団してスポーツの楽しさ、そして友達作りが出来る事を願っています。

今後も益々高麗川スポーツ少年団及び日高市スポーツ少年団が発展する事を心より祈念申し上げます。



高麗川スポーツ少年団
元団長 立野靖彦

高麗川Animals



高麗川フェニックス女子

高麗川フェニックスは、1985年(昭和49年)に発足しました

★主な大会成績★

- 埼玉県ミニバスケットボール大会 22回出場(17年連続出場)
- 関東バスケットボール大会 3回出場
- 埼玉県スポ少駅伝大会 優勝3回

★活動の合言葉★

- 常に礼儀正しく行動する
- 一生懸命がんばる
- バスケットで仲間を作る
- 見守ってくれる親に感謝するを基本に、自分で考えて行動する団員作りをしています



高麗川フェニックス男子



高麗川フェニックス男子は1995年(平成7年)から活動しています

主な戦歴は、

- 2014年 埼玉県スポーツ少年大会(春季)第4位
- 2014年 所沢カップ 優勝
- 2014年 埼玉県ミニバス大会(秋季) Cブロック第3位
- 2017年 埼玉県ミニバス大会(秋季) 第9位
- 2018年 埼玉県ミニバス大会(秋季) 敢闘賞

現在は、高麗川小学校の他に、市内小学校の子ども達も在籍し、元気に活動しています。



2022年



各単位団の紹介

高根スポーツ少年団



団長:宮寺 茂

創立年月日:昭和48年4月1日

活動場所:高根小学校

指導者数:8名

団員数:12名(男子7名女子5名)



吉田薫生・平川郁人・藤田夏歩・加藤駿汰・国本拓未・松實理功・藤田如歩 須藤ひのき・野地優菜・栗井菜々音・須藤みづき・野地杏菜

~経歴~

○鹿山の森に大規模なこま川団地が建設され、その中に高根小学校が1973年(昭和48年)1月開校と共に教員の戸田恵先生や初代本部長の三浦助藏さん達の力添えで4月に発足となる

レグルス

○野球、サッカーのチーム愛称として発足と同時に誕生する。

『レグルス』とは、夜空に輝く星座、しし座を構成する星のひとつです。当時の松下友紀氏、木村貞夫氏が日高の王者になってほしいと願いをこめてつけたものです。

コスマス

○1977年(昭和52年)ミニバスケットチームが誕生する

コスマスとは果てしなく広がる宇宙&可憐な花コスマス

【組織体】

○単位団 ⇒ 団長、副団長、事務局、指導者、学年役員 の構成で運営

○後援会 ⇒ 後援会長 副会長 全保護者 の構成で運営

【活動】

○少年団 前期(4月~9月初旬)は野球 後期(9月中旬~3月)はサッカー
ミニバスケットは通年活動

○後援会 保護者は入団と一緒に加入となり、子供達と一緒に少年団及び地域活動に参加して支援します。
資源回収(2~3回/年)、スポ少祭り、ミニキャンプ、ハイキング、卒団合宿、地区運動会、
地区清掃活動、ポーリング大会、かわせみマラソンなど

【今後】

少子化に伴い団員数は大幅に減少となり単独チーム編成が出来ず他の団との連合チームとして活動している状況です。またコロナ禍に伴い、地域との活動の場が少なくなりつつある中ですが、子供たちと一緒にあって地域の活性化に向けてスポーツ少年団活動を進めて行きます。

直近の卒団メンバ



2021年度 卒団
道谷康介・栗井有紀



2020年度 卒団
吉田龍生・平井楓絵・平賀心美



2019年度 卒団
道谷 楓・垣中彩希



2018年度 卒団
平松拓己・星野天佑・森住幹太
佐藤さらら・河内千尋・福島優月
小倉優歩・藤元帆花・平井咲絵



2017年度 卒団
福田雄河・浅野大和
友枝美空・栗井瑞紀
久保唯斗・垣中悠希
米本留



2016年度 卒団
星野聖稀
一谷裕一郎



2021年度 卒団
丸山香々菜・矢島優思・佐野咲音・中西陽菜・栗原 杏・新井美月
内野 時・春日夏輝・内野隼治・久保幸輝・佐藤来夢・佐藤流星・関悠太郎・道谷悠斗・南部元快・丹下坂太陽・浅見礁吾



2013年度 卒団
和知明里・佐野萌香
十時菜々美・飯田梨月
金子瑛良



2014年度 卒団
米沢祐希・渡部美咲・岡元勇樹





2012年度 卒団
齊藤千聖・山田美紀・相川友泉・佐藤彩音・川田結子・矢島光葉・金子奈美・浅見渚・天野陽菜
塙本ひなた・村上 大・植野智也・星野遼斗・大澤辰哉・安部優介・栗原 栄



2011年度 卒団
浅見海斗・村田大海・山畠秀平・松下和樹・小川颯斗

2010年度 卒団
服部大茅・柏崎悠斗・北村一樹・居館龍樹・荒井俊哉・園田 蓮
櫻井大貴・太田和希・ラハニ咲菜・相川和泉・田口ほのか



2009年度 卒団
安部純輝・山畠祐允・畠山辰吉・宮下 宙・植野将也・天野寛太・川口幸喜・奈良拓人・瀬戸修人・高島萌野花
河野夏子・小名坂梨花・菊池大鷹・難波昌寛・宮下 舜・石橋悠希・新井郁人・川田裕己・金子龍人・小林裕人



2008年度 卒団
村山紗瑛・小名坂優華・石田恵美
宮澤佳希・村田大翼・金子翔太・塩旗理泰・金子拓海・大河原晋吾



2006年度 卒団
内田 唯・萌・石井美紗登
新井聖人・市川雅樹・小島撫平

後援会活動



ハイキング



資源回収



ミニキャンプ



スポ少祭り



地区運動会



社会見学



卒団式

高萩スポーツ少年団



団長:鈴木清一

創立年月日:昭和47年10月1日

活動場所:高萩小学校

指導者数:25名

団員数:53名(男子37名女子16名)



日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されますことを心からお慶び申し上げます。諸先輩方、指導者の方々、校長先生を始めとする学校関係者の方々、大変なご苦労があったことと思います。心から感謝申し上げます。高萩スポーツ少年団も今年度創立50周年を迎えることができました。現在、高萩スポーツ少年団も連合での活動となっております。

近年は、高萩のみならず団員の減少が課題となっており、以前と比べ子供達のスポーツを取り巻く環境も大きく変わりました。子供達がスポーツ少年団に入りたい、入って良かったと思ってもらえるような環境にする事が責務だと思っております。

終わりに、日高市スポーツ少年団創立50周年をお祝い申し上げるに際して、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立50周年を祝して

高萩スポーツ少年団

野球代表コーチ 浜口博一

日高市スポーツ少年団創立50周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されますことを心からお慶び申し上げます。スポーツ少年団で野球に関わるようになって20年以上が経ちましたが、指導者や連盟の方々の顔ぶれはだいぶ変わりました。以前は敬語を使うばかりでしたが、最近は敬語を使われることも多くなり時の経過を感じます。また昔は指導で朝から日が沈むまで校庭で走り回っても疲れなかったのですが、最近は帰宅すると動けなくなっている自分がおります。

昨今の少子化等により、団員が減りチームを維持する事が出来なくなりつつあるのですが、スポーツ少年団OB、に会った時、「スポーツ少年団に入って良かった」と言ってもらえると、今後も子供達の成長の一助になればと思っております。

終わりに、日高市スポーツ少年団創立50周年をお祝い申し上げると共に、関係者様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立50周年に感謝と祝い

高萩スポーツ少年団 サッカーコーチ 細田清一

日高市スポーツ少年団50周年、誠におめでとうございます。この団体を支えてこられた皆さまの情熱、行動力、子供達を愛するからこそ、半世紀という長い長い歴史が築くことが出来たと思います。主役の子供達がスポーツを通して成長していく姿を身近で感じることが出来る場所に皆さまと一緒に過ごせたことに感謝しかありません。喜怒哀楽を数倍感じることが出来る場所です。子供達にとっても地域の人達との触れ合いから始まり、地域を越えての子供達同士の出会いといった普段では遭遇出来ない出来事、成長過程で大切な経験を出来る場所でもあります。個人間の相互作用によって特有な行動、態度、考え方も育成でき、子供達にとっても社会教育として素晴らしい環境を味わえる魅力的な場所だと思っています。この素晴らしい団体の存在、発展することを心より願いましてお祝いの言葉といたします。



創立50周年を祝して

高萩スポーツ少年団 ミニバスコーチ 石井良明

日高市スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。高萩エンジェルスは1年を通してミニバスケットボールを行っています。発足当初は各学年でチーム作りを行えるほど団員数に恵まれていましたが、近年は団員数の減少により全学年で1チームを編成するのが精一杯な状況が続いております。現在は高麗、高根が団員減少によりチームが作れない為、高萩で合同チームとして活動しています。また、以前より男子のミニバスケットボール希望者が増えており、その声に応える為、5年前(平成30年度)に高萩、高麗合同チームを立ち上げました。現在、男子、女子共に、切磋琢磨し頑張っております。

最近では、新型コロナウイルス感染拡大により、大会の中止、練習の制限など子供達には、大変辛い思いをさせてしまつておりましたが、ここにきてようやく平常に戻りつつあり、練習や試合を通して、指導者として子供達の成長に役立つ事が出来ればと思っております。



各単位団の紹介

高萩北スポーツ少年団



団長:齊藤 弘

創立年月日:1973年4月1日

活動場所:高萩北小学校

指導者数:20名

団員数:58名(男子36名 女子22名)



日高市スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。高萩北スポーツ少年団は昭和53年に日高町で4番目に発足しました。最初は学校の先生方と北地区の有志の方々が協力して指導したのが始まりの様です。今現在では20名の北地区及び少年団の卒団生の一般指導者が中心に少年団活動を行い、歴代団長、保護者を中心とした後援会をはじめ、学校、地域の方々のご支援とご愛顧によって子供たちがのびのびと活動出来る環境を作って来ました。高萩北スポーツ少年団ではアンタレスとチエリーズが活動しています。アンタレスは4月から8月までが野球、9月から3月までがサッカーの2種目のスポーツを行っています。チエリーズは年間を通してミニバスケットボールを行っています。団ではスポーツを通して健全な心身鍛錬、粘り強い精神の育成、あいさつがしっかり出来る子、スポーツの楽しさ、仲間の大切さを考え日々指導しております。

今、直面している問題があります。少子化に伴い団員数の減少です。20年前に比べ約三分の二の60名程で活動しています。学校に募集案内やチエリーズと遊ぼう等を実施し、団員を増やす努力をしていますがなかなか良い結果が出ません。今後、団、後援会が一つになり活動の輪を広げて行くには何をして行けば良いか皆で考えて行きたいと思います。

日高市の各団でも団員数の問題を抱え、ここ数年、連合チームとして活動をしている団もあります。

高萩北スポーツ少年団では単独でチーム編成し、ここ数年の間でもチエリーズ、アンタレス共、県大会出場を果たしています。

子供たちのスポーツに対しての熱い気持ちを大事にし、指導者、後援会で盛り上げて行きたいと思います。

～コロナ過により減少しましたが 過去を含めた地域参加活動及び団行事です～



歩け歩け大会(4月と11月)



ペタンク(7月)



グランドゴルフ(11月)



先生との交流・ソフトボール(9月)



先生との交流・サッカー(11月)



先生との交流・ミニバス(1月)



東京見学(7月)



夏合宿(8月)



おらが村の相撲大会(9月)



卒団旅行(3月)



卒団式(3月)

高萩北スポーツ少年団 組織

団長 齊藤 弘

副団長 倉持 弘 永島龍二

会計 藤井隆志

アンタレス指導者

小東武美 細田進一 山本 学

伊井良之 山本隆也 小椋翔太

植木 孝 若林 清 篠 貴幸

齊藤 弘 永島龍二 藤井隆志

チエリーズ指導者

美松長徳 本多忠寿 中村由里子

金田紀雄 飯田睦也 関口喜博

倉持 弘 中村佳穂里

アンタレス 野球&サッカー

↓市長杯優勝 県大会出場(令和3年)→



県民スポーツ大会 第40回 埼玉県スポーツ少年団
夏季小学生軟式野球交流大会 <埼玉新聞社杯>



チェリーズ ミニバス

6年キャプテン 藤原沙羽

学校が休みの日も友達とバスケができ、土日も同級生や他の学年とバスケをしたり休み時間にはひーちゃんとおしゃべりをして楽しいです。

また、他校と仲良くできることです。

試合などで高麗川や高萩の子と仲良く話しが出来ること。

そして美松コーチに出会えた事、練習に時間を費やしてくれ試合では本気で怒鳴ってくれる美松コーチ感謝の気持ちいっぱいです。

6年 中村光里

はじめは練習がつらくて休んでばかり、でも4年なって「さすがにやばい」と思い、その後キチンとバスケを行ったので運動がすきになり体力もつき友達もでき一石二鳥、今年は6年が二人で弱いけど来年は9人期待しています。

のこり少ないミニバス全力で頑張る。



5年代表 加藤瑚花

チェリーズは、バスケをするだけでなく資源回収や体育館掃除などをみんなでする活動があり、私はその活動も大好きです。バスケの練習も試合にむけてがんばって練習しています。

私はみんなと活動できて楽しいです。

4年代表 江崎柚空

一年生から入団しました。シュートやドリブルができませんでした。でも、コーチや上級生に教えてもらいうまくなりました。目ひょうは県大会出場です。のために練習がんばります。

3年代表 渡邊ひかり

チェリーズにはいったらバスケがうまくなりました。さしいれもあります。うれしいです。
でもあさ20しゅうはしるのがきついです。
でもみんながやさしくしてくれうれしいです。



他の団員

- 5年 佐藤珠羽・長沢咲来・岩崎 愛
室越俐里奈・宮本杏凜・中出千尋
吉澤みすず・大室心葉
- 4年 川上紗央莉・飯田笑菜・藤井梨良
中村夢華・神田紗奈・荻野 菖・古屋敷優愛
- 3年 藤井 咲良・山崎 和華・唐澤 希実



指導者代表 関口喜博

高萩北チェリーズは高萩北小学校の生徒なら誰でも参加できるスポーツ少年団です。現在、3年生から6年生23名で活動しています。

上級生は下級生の面倒を良く見てくれ、下級生は上級生の言う事を良く聞いて一生懸命練習しています。ミニバスケットを通して、みんな仲良く、体を鍛えながら上達出来るよう団員と美松コーチを始め指導者全員で継続して行きたいと思います。



日高市スポーツ少年団本部規則

- 第1条 本団体は、日高市スポーツ少年団本部(以下「本部」という。)と称する。
第2条 本部は、日高市教育委員会内におき、事務所は本部長の指定する場所におく。
第3条 本部は、日高市内における次のスポーツ少年団をもって組織する。
(1) 武藏台スポーツ少年団 (2) 高麗スポーツ少年団
(3) 高麗川スポーツ少年団 (4) 高根スポーツ少年団
(5) 高萩スポーツ少年団 (6) 高萩北スポーツ少年団
第4条 本部は、スポーツを通じて青少年の心身の鍛錬と健全な育成を図ることを目的とする。
第5条 本部は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1) スポーツ少年団の登録
(2) スポーツ少年団の指導者及びリーダーの養成
(3) スポーツ少年団を主体とする各種スポーツ大会の主催及び後援
(4) スポーツ少年団の指導者及び団員研修会の開催
(5) 県内スポーツ少年団との交流
(6) 関係諸団体との連絡、調整
(7) その他目的達成のための事業
第6条 本部に次の役員をおく。
(1) 本部長 1名 (2) 副本部長 2名 (3) 理 事 9名
(4) 幹 事 1名 (5) 会 計 1名 (6) 監 事 2名
(7) 顧 問 6名
第7条 役員の選出は、次のとおりとする。
(1) 本部長・副本部長は、日高市に在住または在勤し、青少年のスポーツ振興に深い理解を持つ人を役員会において推薦し、総会において承認する。
(2) 理事は、各スポーツ少年団の団長及び各専門委員会の委員長とする。
(3) 幹事及び会計は、役員会の承認を得て本部長が委嘱する。
(4) 監事は、役員会において選出する。
(5) 顧問は、各スポーツ少年団における本部長経験者を原則とする。
第8条 役員の任務は、次のとおりとする。
(1) 本部長は、本部を代表し、会務を統括する。
(2) 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故ある時はその職務を代行する。
(3) 理事は、各会議の構成員として審議に参加する。
(4) 幹事は、各会議の決定に従い、会務を執行する。また、日高市教育委員会と連絡及び調整を図る。
(5) 会計は、経理を処理する。
(6) 監事は、経理を監査する。
(7) 顧問は、本部長の諮問に応じて各会議に出席することができる。
第9条 役員の任期は、次のとおりとする。
(1) 理事及び顧問を除く役員の任期は、2ヵ年とする。但し、再任は妨げない。
(2) 理事及び顧問は、各スポーツ少年団及び各専門委員会の選出による。
(3) 役員が欠員したときは、役員会において補欠役員を決定する。なお、任期は、先任者の残任期間とする。
第10条 本部に役員会の承認を得て、名譽本部長、参与及び相談役をおくことができる。
第11条 役員会は、本部長、副本部長、理事、幹事及び会計をもって構成し、本部長が招集し、議長となり、本部の予算、決算、事業計画、役員の改選、規則の改正等(以下「重要事項」という。)を審議する。
第12条 総会は、役員、各専門委員及び各スポーツ少年団の指導者等で構成し、本部長が招集し、議長となり、重要事項を審議、決定する。また、来賓者として名譽本部長、参与、相談役及びその他の貢献者等を招待する。
第13条 各会議は、構成員の半数以上をもって開き、出席者の過半数をもって決議される。
第14条 本部に専門委員会をおく。なお、専門委員会の規約は別に定める。
第15条 本部の経費は、次のもので支弁する。
(1) 登録料 (2) 補助金 (3) その他
第16条 各スポーツ少年団の団員及び指導者等の登録料は、毎年6月30日までに納入するものとする。なお、登録料の額は、細則として別に定める。
第17条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終るものとし、定期会計監査及び本部長が必要と認めた場合は臨時会計監査を行う。
第18条 本部規則上、必要な細則、規約等は、役員会において別に定める。
第19条 役員及び各委員に対する慶弔慰金は、次のとおりとする。
(1) 本人、同居する家族(配偶者、子、親)を対象とする。
(2) その他については本部長に一任する。
第20条 この規則は、昭和48年1月19日より施行する。

日高市スポーツ少年団倫理委員会規程

- 第1条 この規程は、日高市スポーツ少年団本部(以下「本部」という。)規則第18条に基づき、日高市スポーツ少年団倫理委員会(以下「委員会」という。)を設置して必要な事項を定める。
第2条 この委員会は、役員会の諮問に応じ、次の事項を審議し具申する。
(1) 公益財団法人日本スポーツ協会倫理規程第4条に規定する遵守事項の推進
(2) 公益財団法人埼玉県スポーツ協会定款第55条に規定する義務の遵守の推進
(3) スポーツ少年団登録者処分基準3項に基づく調査、事実確認等前号に基づく処置等
第3条 この委員会に、次の委員を置く。
(1) 委員長 1名
(2) 委 員 若干名
第4条 委員の選出および任期は、次のとおりとする。
(1) 委員は、本部規則第7条による役員の選出に準ずる。
(2) 委員長は本部長とする。
(3) 委員の任期は、本部規則第9条による役員の任期に準ずる。
第5条 委員会の運営は、次のとおりとする。
(1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
(2) 委員会の議事は、委員の合意により決定する。
(3) 委員長が必要と認めたときは、委員会に参考人を求め、その意見を聴取することができる。
(4) スポーツ少年団登録者処分基準4項 (2) 嚙重注意 (3) 活動停止及び (4) 登録取消しに相当する場合、公益財団法人埼玉県スポーツ少年団本部倫理委員会へ処置等を移管することとする。
(5) 委員会は原則として非公開とする。
第6条 本規程は、役員会の議決により変更することができる。
附 則 この規程は、令和3年1月1日から施行する。

専門委員会規約

- 第1条 本部に次の専門委員会をおく。
(1) 野球専門委員会
(2) サッカー専門委員会
(3) ミニバスケット専門委員会
第2条 専門委員会の主な事業は、次のとおりとする。
(1) 日高市スポーツ少年団主催の各種大会の企画、運営
(2) 交流試合等の企画、運営
(3) その他
第3条 各専門委員会に次の役員をおく。
(1) 委員長 1名
(2) 副委員長 1名
(3) 会 計 1名(副委員長が兼ねることができる)
第4条 各専門委員会は、各スポーツ少年団の指導者等で構成し、専門委員会役員及び上位機関への派遣役員等の選出方法については各専門委員会に委ねる。
平成25年 5月11日改正

細 則

- 第1条 登録料の金額は、次のとおりとする。
・団員1名につき 1,500円
・指導者等1名につき 1,000円

編集後記

50周年を迎えるにあたり、数年前より少ない本部予算から毎年数万円程度を積立ててきました。そして3年前に入り本格的な準備として記念誌発刊、記念大会、記念式典などを計画する方針で30周年時の実績をベースに進めて行く事しましたが、世界に猛威となる新型コロナウィルス感染に伴い、スポ少自身の活動も自粛せざる得なくなり、50周年記念行事に関する資金繰りの活動(資源回収、模擬店、バザーなど)及び競技別(野球、ミニバスケットボール)記念大会、そしてみんなが集まつての式典等は無理と判断しました。しかし何か記録に残るものとして残したいとの思いから記念誌だけは発行する方針に切り替えました。

新型コロナも日常生活の中で対応する方向となり各大会はなんとか出来る環境となりましたが、来賓(市長さん、校長先生など)みんなが集まつての開会式は取りやめ、大きな声援も自粛しながらの大会となり、スポ少活動を紹介する場が少なくなっています、少子化も影響しておりますが、各団員も10年前の400名台から200名台に半減となり各団は連合チームを組み、大会に臨んでいるのが現状です。

日高市スポーツ少年団は『地域と共に活動する』ことを基本ベースとしております、この記念誌発行を機に各関係部署(学校、公民館、市役所、自治体)に紹介してまいりますので今後もご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に50周年記念誌『あゆみ』へのご寄稿して頂きました、埼玉県スポーツ少年団本部長 尾崎豊様、日高市長谷ヶ崎照雄様、はじめ関係者の方々にはお忙しい中、誠にありがとうございました。紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

日高市スポーツ少年団は51年目に入り60、70、80、…年目に向けて走り続けてまいります。

(記念誌担当 吉田 久志)



記念誌準備委員 (2022年度本部役員)

委員長 和田 茂(本部長)

吉田 久志(記念誌担当) 加成宜也(副本部長) 岡野一平(副本部長)

木村美智雄(高麗スポーツ少年団団長) 宮越昭彦(高麗川スポーツ少年団団長)

鈴木清一(高萩スポーツ少年団団長) 宮寺 茂(高根スポーツ少年団団長)

齊藤 弘(高萩北スポーツ少年団団長) 林 俊和(武藏台スポーツ少年団団長)

齊藤 弘(野球専門委員長) 塩月貴弘(サッカー専門委員長)

本多忠寿(ミニバスケット専門委員長) 武田達也(高麗スポーツ少年団)

清水 学(高麗スポーツ少年団)



日高市スポーツ少年団

あゆみ

令和4年度 (2023年3月)

発行 日高市スポーツ少年団